

薬だつ知識

薬を服用していて不安に思うことがあったり、困ったりしたことはないでしょうか。薬を中断してしまったことや、きちんと服用できなかった経験はないでしょうか。

私も薬剤師は薬を渡した後も、電話や会員制交流サイト（SNS）で患者さんの体調変化や副作用の有無、服薬状況などを確認する「フォローアップ」を実施しています。

「フォローアップ」は、全ての人に実施しているわけではなく、抗がん剤など副作用の発現リスクが高い薬を服用していたり、薬の種類や量が増えたりした場合、あるいは薬を中止した後など内容に応じて行っています。

薬によっては予想外の副作用が出てしまうこともあります。薬剤師が「フォローアップ」をすることにより、副作用の早期発見や適切な服薬のサポートを受けられるというメリットがあります。

体調変化や副作用確認

56. フォローアップ

ここでひとつ具体例を示します。痛み止めで便秘を起こす場合があります。薬剤師は「フォローアップ」において、まず薬の効果（痛みの状況）や服薬状況を確認します。それ以外にも便秘が起きているかなど副作用も合わせて確認します。痛みが抑えられていない場合には痛み止めの増量や変更、便秘が起きている場合には下剤などが必要となる場合があります。

そこで、薬剤師は痛みの状況だけではなく、副作用の発現状況も主治医へ伝え、必要であれば下剤の処方、ほかの薬への変更などを提案します。通常であれば、患者さん自身が診察時に主治医へ相談することになります。が、「フォローアップ」で得られた情報をもとに薬剤師と主治医が連携することにより、スムーズな対応が可能となります。

「多職種連携」という言葉を耳にしたことがあると思います。さまざまな職種が連携して、患者さんによりよい医療が提供されるのが理想です。薬について困っていることや不安なことなどがありましたが、いつでも身近な薬剤師に相談してください。（鹿児島県薬剤師会実務実習委員会・東中川雅史）



「フォローアップ」では電話や会員制交流サイト（SNS）で体調変化や副作用の有無を確認する

「薬だつ知識」は毎月1回掲載します。

くらし面への投稿、意見は〒890-8603 南日本新聞社文化生活部（住所不要）、電話099(813)5133、ファクス099(813)5180、メールkurashi@373news.com

「令和4年6月10日（56.フォローアップ）」